

## 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	文化会館 係	事務事業No.	121132	
事務事業名	市民舞台芸術創作事業					
会計	一般会計	款	2	項	1	
				目	13	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画掲載頁	45
	施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実				
	施策項目	芸術文化の振興				
個別計画	第7期社会教育計画				35	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	大町市民（在勤・在学者も対象）			舞台創作を担う人材育成の場として前年度は「企画プロデュースコース」夏期・冬期講座を開講。今回は、より実践的な講座を冬期に集中し「羽毛田丈史コンサート」を企画運営の実務を体験した。		
主な業務内容	冬期講座 受講生 12名 「羽毛田丈史コンサート」実施に係る企画と運営の実践 全7回					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）			1,329,611	円	1,429,158	円	817,893	円
財源内訳	特定財源								
	一般財源		1,329,611	円	1,429,158	円	817,893	円	
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	受講者数	人	23	14	12	5	240.0%	-
	②	WS開催回数	回	25	11	7	6	116.7%	-
③	WSコース数	数	3	2	1	1	100.0%	-	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	成果発表会観客	人	80	361	-	500		-
	②	成果発表会開催数	回	1	1	-	1		-
③									
2. 数値で表せない効果									
舞台創作を担う人材育成の場として、宣伝プロモーションや運営についてより実践的な学びの場とすることができた。									

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	普通	普通	普通	重複なし	普通	改善の余地あり			
点数	2	2	2	3	2	2		18		
評価理由		地域芸術文化を担う新たな人材発掘の場としての事業の必要性は感じられるが、参加者の固定化等、市民ニーズがそれほど高いとは言えないと思われる。市民が参加しやすいなどのやり方の改善が必要かと思われる。								

### 【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
平成24年度からの地域文化コーディネーター派遣事業から派生し、地域芸術文化を担う新たな人材発掘の場として、舞台創作の技術や過程を学ぶ場として「冬期芸術大学」を実施して来たが、市民への浸透が十分でなく、参加者の固定化等が進んだため平成29年度に事業の見直しを行い、企画プロデュースコースを独立させた。 令和元年度は企画プロデュースコースに特化して「羽毛田丈史コンサート」を企画運営を実践したが、新型コロナウイルス感染症により実施とはならなかったが、イベント中止の際の払戻し等の手続きについて学ぶことができた。
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
引き続き、企画プロデュースコースに特化したなかで、イベントの企画運営をすることとするが、運営については業務委託とするのではなく、職員や専門的な地域等を有する地域住民を講師とし、地域に根差したイベントの実施を目指す。

## 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	女性未来館ピュア 係	事務事業No.	15124	
事務事業名	女性未来館ピュア運営事業					
会計	一般会計	款	5	項	1	
				目	2	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画掲載頁	42
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供				
	施策項目	多様な分野の学習活動の充実と促進				
個別計画					頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	新規就業者、中途採用者希望者を含む女性労働者及び勤労家庭の女性を対象に円滑な就業の促進や資質の向上を図るための援助を行う。			女性問題に関する啓発活動を通じて問題意識の喚起や女性の意識向上を積極的に推進する。		
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性のための各種講座や講演会及びサークルなどが円滑に活動できる管理体制を図る。</li> <li>託児ボランティア活動の人材育成の実施。</li> </ul>					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		4,084,181 円		4,179,239 円		4,137,754 円		
	財源内訳	特定財源	円		円		円		
一般財源		4,084,181 円		4,179,239 円		4,137,754 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	女性未来館ピュア講座	回	16	16	16	15	106.7%	15
	②	サークル育成事業	件	8	8	8	8	100.0%	8
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	ピュア講座（公民館共通舎）参加者数	延人数	960	950	787	950	82.8%	800
	②	公民館・ピュア利用者数	団体	79	81	84	80	105.0%	80
	③								
	2. 数値で表せない効果		（指標①）子育て世代の講座参加を促すための託児を実施するとともに、教養の幅を広げ、シニア世代の健康増進、生きがいの場の提供に繋がっている。						

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	16
	点数	高い	高い	普通	一部重複	高い	適正である					
評価理由	健康志向が健康講座に集まる要因であり、リピーターも多く引き続き実施したい。「継続は力なり」続けることの大切さと努力は裏切らず必ず結果がついてくる。そういう意味でも継続事業としたい。また運動講座でも種類を広げるにより自分に合った運動を見つけることができる。（ヨガ、水中運動、バランスボール等）											

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
事業のマンネリ化を防ぐため、新規講座等を企画しているが、知識向上の講座（相続関係、マネー講座）等は、ハードルが高いと思われる受講者が限られる。また、若い世代、子育て世代に受講してほしい（例ベビーマッサージ等）講座は少子化に伴い受講者のない状態が続いている。一方、高齢化が進む中、長く続いていたサークル活動の減少が増えている。
<b>改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
講座のマンネリ化防止策として質の高い講師等を依頼したり、続けられる講座を企画したい。 若い世代には、モノ作りなど子育ての疲れを癒せる講座（例えばアロマセラピー・漢方薬の使い方・手相講座・親子の簡単料理他）を取り入れたい。また、利用者の高齢化が進む中、サークル活動等の継続を図るため、無理のない生きがいが持てる場づくりを提供していく。 講座の終わりには、意見、要望等のアンケートを取りながら利用者の求めている講座の把握に努め、より効果的な事業実施を行う。

## 事務事業評価調査

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	八坂公民館 係	事務事業No.	110128	
事務事業名	山村留学支援事業					
計	一般会計	款	10	項	1	
				目	2	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画掲載頁	39
	施策目標	心豊かにたくましく生きる子どもの育成				
	施策項目	地域で育む教育の推進				
個別計画					頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>公益財団法人育てる会</li> <li>大町市八坂美麻山村留学推進協議会</li> </ul>			山村留學生の積極的な受け入れにより、複式学級の回避を図るほか、多方面で教育効果の向上に努め、地元小中学生と留學生相互の健全な成長を助長する。また、保護者や地域と都市住民との交流を促進し、地域の活性化につなげる。		
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>山村留學事業主体の「公益財団法人育てる会」への補助金交付</li> <li>山村留學生受入農家への助成金交付</li> <li>旧市内小學生の「夏休み農山村交流体験活動」（短期山村留學）への参加助成</li> </ul>					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		20,050,000 円		20,050,000 円		20,340,000 円		
財源内訳	特定財源		15,605,000 円		17,545,000 円		14,840,000 円		
	一般財源		4,445,000 円		2,505,000 円		5,500,000 円		
活動指標	指標名		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	単位		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	受入農家数	戸	10	10	8	10	80.0%	10
	②								
③									
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	山村留學児童生徒数	人	32	32	30	32	93.8%	32
	②								
③									
2. 数値で表せない効果									
山村留學生と地元の児童生徒は、お互いを尊重し合い、切磋琢磨し学習に取り組んでいる。また、山村留學OBとの交流を通じ、棚田での米づくりを行う等、都市との交流を積極的に行い地域の活性化につながっている。									

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
点数	3	3	3	3	2	3		18		
<b>評価理由</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>山村留學生の受け入れにより、児童、生徒数が増加し複式学級の回避など、学校の維持、発展につながっている。</li> <li>特色ある教育の実施や相互交流により、児童、生徒の健全な成長を助長している。</li> <li>地元農家へのホームステイや地域行事への参加により、地域の活性化に寄与している。</li> <li>昭和51年に旧八坂村から始まった山村留學はその効果が認められ、現在では全国で実施されている。</li> </ul>										

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームステイを行う農家の高齢化により、新規の受入農家の確保が急務であるが、近年は、兼業化が進んでいるとともに生活スタイルが変化し、新たに地区内において受入農家を確保していくことが難しい状況である。</li> </ul>
<b>改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>受入農家の負担軽減を図るため、ホームステイの日数や宿泊費等について（公財）育てる会と検討する。</li> <li>地区住民の山村留學への理解をさらに深めるため、現状や必要性、魅力について積極的に広報していく。</li> <li>地区内の非農家世帯についても受け入れを推進していく。</li> <li>現在は、寮（センター）とホームステイの併用方式であるが、他自治体が実施している寮単独方式や家族と一緒に移住する家族方式等の導入を（公財）育てる会と研究していく。</li> </ul>

## 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	生涯学習・青少年 係	事務事業No.	110414	
事務事業名	エネルギー博物館運営費助成事業					
会計	一般会計	款	10	項	4	
				目	1	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画掲載頁	41
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供				
	施策項目	自由に学び成果を生かせる学習環境の整備と連携体制の構築				
個別計画	第7期社会教育計画				50	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	エネルギー博物館の運営費助成			生きがいに満ちた生涯学習社会の推進、様々な学びの場の確保のため、エネルギーを中心とした理論・技術等に関し、多面的な考察により様々な事業展開をしているエネルギー博物館の社会教育施設としての安定した運営維持を図る。		
主な業務内容	経常経費分と修繕工事等臨時的経費分の補助					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		12,543,000 円		13,013,000 円		12,684,000 円		
	財源内訳	特定財源	円		円		円		
一般財源		12,543,000 円		13,013,000 円		12,684,000 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	開館日数	日	190	189	189	200	94.5%	200
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	入館者数	人	10,505	8,122	7,401	10,000	74.0%	10,000
	②	入館料	円	2,606,470	2,222,500	1,947,950	2,700,000	72.1%	2,700,000
	③								
	2. 数値で表せない効果（指標①）								

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	普通	普通	普通	重複なし	普通	改善の余地あり			
点数	2	2	2	3	2	2	18			
評価理由	近隣では珍しいエネルギーを中心とした博物館であり、科学的思考を喚起する場の社会教育施設として、安定した運営維持を図るため支援は有効である。									

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
社会教育施設としての位置づけとして安定した施設運営を図るため運営費に対し補助しているが、運営団体が公益財団法人であり経常経費の約6割を補助金で賄う状況である。公益財団法人として独立した運営ができるよう支援が必要である。また、目に見えないエネルギーについての貴重な博物館であるため、様々な関係団体や個人との長年の繋がりが出来ており、特別展の開催や貴重な展示物の寄付などの支援も受け、法人として運営努力をしているが入館者の増加にはつながらない。
<b>改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
運営団体は公益財団法人であるが、理事長は市長であり常務理事は教育長である。そのため、館長や主任学芸員と協力し助言を行いながら、社会教育施設として安定した運営が行えるよう引き続き支援を行う。 関西電力から寄贈を受けたトrolleyバスの受電ポールの展示のほか、トヨタ自動車から寄贈を受けた、県内で初めてとなる現行型プリウスPHVのカットモデルの公開展示に向けた準備を進めている。また、「北アルプスの気象と山岳環境シリーズ」の展示内容を更新するなど、環境問題や新エネルギーに関する企画・展示の充実を図っている。



## 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	生涯学習・青少年 係	事務事業No.	110415	
事務事業名	公民館分館整備助成事業					
会計	一般会計	款	10	項	4	
				目	1	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画掲載頁	41
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供				
	施策項目	社会教育の充実と活性化				
個別計画	第7期社会教育計画				50	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	公民館分館及び地域集会施設の施設整備等に対する補助			地域の拠点となる公民館分館や集会施設の施設整備に対する補助を行うことにより、環境整備が図られ生涯学習活動の拠点とし、自治活動の活発化を図る。		
主な業務内容	施設の改修・改築などに費用に対し、事業費の1/3を補助（上限あり）					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		1,626,000 円		828,000 円		6,090,000 円		
	財源内訳	特定財源	円		円		円		
一般財源		1,626,000 円		828,000 円		6,090,000 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	整備件数	件	1	1	2	1	200.0%	1
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①								
	②								
	③								
	2. 数値で表せない効果 （指標①） 自治会や地区の活動拠点となる施設が整備されることにより、地域の活動の継続、発展が見込まれる。								

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
点数	3	3	3	3	2	3	18			
評価理由	地域の拠点となる施設整備の必要性は高く、施設整備について多くの相談がある。制度の活用により施設整備が促進されることで、環境整備が整い生涯学習活動の拠点として、一層の自治会活動の活性化が図られる。									

### 【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
地域のコミュニティ施設である公民館や集会所の施設整備は、耐震改修や下水道接続などの要望が見込まれることから、今後も継続していくことが必要である。引き続き、補助金の活用を促進するためにも制度の周知を図っていく。
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
毎年、10月号広報で制度を周知。引き続き、継続していく。

## 事務事業評価調査

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	生涯学習・青少年 係	事務事業No.	110416		
事務事業名	生涯学習推進事業						
計	一般会計	款	10	項	4		
				目	1		
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画登載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供					
	施策項目	自由に学び成果を生かせる学習環境の整備と連携体制の構築					
個別計画	第4次大田市生涯学習推進プラン					1	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）			
	一人一人が自ら生きがいを持ち、主体的に心豊かな人生を歩むため、生涯学習社会の推進を図る。			その生涯にわたってあらゆる機会、あらゆる場所において、学習することができる環境の整備とともに、その主体的な学びの成果を地域に生かし、還元できる生涯学習社会の推進。			
主な業務内容	生涯学習に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための大田市生涯学習推進本部を設置し、公民館などの社会教育施設における各種取り組みの推進だけでなく、生涯学習社会の推進を図るため、生涯学習推進プランに基づき、関係部署における全市的な取り組みの進捗管理の実施。また、生涯学習・青少年係としては、生涯学習推進本部事務局のほか、リーダーバンク制度の推進、職員出張講座、「がったつうしん」の発行、郷土冊子の作成をしている。						

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		807,326 円		24,789 円		796,835 円		
	財源内訳	特定財源	円		円		4,800 円		
一般財源		807,326 円		24,789 円		792,035 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	がったつうしん	回数	4	4	4	4	100.0%	4
	②	リーダーバンク登録者	人	65	63	62	70	88.6%	70
③	リーダーバンク登録団体	団体	24	18	18	25	72.0%	25	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①								
	②								
③									
2. 数値で表せない効果		（指標①）新たに「がった通信夏休み特別号」を作成し配布したところ好評であった。また、市内低学年向けの郷土学習冊子「私たちの大田市」を新たに作成し、学びの循環の基礎作りができた。							

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		普通	普通	普通	重複なし	普通	適正である			
	点数	2	2	2	3	2	3	継続	14	
									18	
評価理由	生きがいを持ち心豊かな人生を歩むためには、生涯学習社会の推進は必要である。大田市生涯学習推進本部において生涯学習推進プランに基づいた、全市的な取り組み状況を管理しながら推進する必要性がある。									

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
現在、生涯学習という概念は、個人の生きがいや教養・趣味・レクリエーション活動等に関する主体的な学習だけでなく、急激な社会変化に対応するため、市民一人ひとりが地域と関わり、地域課題・生活課題の解決に向けて一体となった「学びの絆」や、その学びの成果を地域に還元する「学びの循環」が重要となってきた。その一方、インターネットの普及により、ネットを介した学びや個の趣味づくりが多くなってきており、地元サークル活動への参加や新規サークルを立ち上げるなど、仲間づくりを行うことが少なくなってきた。
<b>改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
人と人との繋がりの中で、同じ趣味や共通した課題を互いに共有することの重要性や「学びの絆」「学びの循環」の大切さについて、粘り強く啓発を続けていく。

## 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	人権教育 係	事務事業No.	110417	
事務事業名	人権教育推進事業					
計	一般会計	款	10	項	4	
				目	1	
総合計画	まちづくりのテーマ	第5節 市民の参画と協働でつくるまち			前期計画登載頁	95
	施策目標	多様性に満ちた共生社会の実現				
	施策項目	人権教育・啓発の推進				
個別計画	大町市人権教育及び人権啓発に関する基本方針					
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どのような状態にしたいのか）		
	全市民（地域、学校、企業）			人権教育を通じて市民一人ひとりが人権問題を自分自身の問題としてとらえ、学校、地域、職場、企業が一体となった人権教育に総合的に取り組むことが出来るよう、地域全体で人権意識を培い、人権尊重の精神を高め、一人ひとりを大切にしたい人権教育の推進を図る。		
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育推進協議会、企業人権教育推進協議会の研修</li> <li>・学校人権教育研究委員会による各学校での活動、人権教育指定校の公開授業（2校）の開催</li> <li>・市内6地区での人権を考える市民の集いの開催</li> <li>・人権作品集「ヒューマンライツ」の作成及び作品集を使った啓発事業</li> <li>・市内小中高の実践記録の作成</li> </ul>					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	総事業費（決算額）		4,103,404 円		3,910,094 円		3,813,298 円	
	財源内訳	特定財源	円		円		円	
一般財源		4,103,404 円		3,910,094 円		3,813,298 円		
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	① 人権を考える市民の集い	回	6	6	6	6	100.0%	6
	② 企業人権教育推進協議会	回	1	1	1	1	100.0%	1
③ 人権週間ポスター展示	回	1	1	1	1	100.0%	1	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	① 人権を考える市民の集い	人	1,777	1,528	1,523	1,528	99.7%	1,750
	② 企業人権教育研修会参加	人	84	84	64	84	76.2%	80
	③ 人権教育指定校公開授業	人	95	94	92	94	97.9%	100
2. 数値で表せない効果		（指標①）人権教育の推進により、市民ひとりひとりが、他の人を思いやる気持ちや互いを尊重しあう心を醸成し、地域のつながりや協力関係を円滑に築く要因となることで、協働のまちづくりの推進に寄与している。						

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計	
	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化	継続				15
	評価	高い	普通	高い	一部重複	普通					
点数	3	2	3	2	2	3					
評価理由	・「人権を考える市民の集い」は、平成27年度から会場を学校に変更し、高齢者学級やPTAの協力を得ながら地域と学校が一体となった取り組みができています。また、市民の集い参加者へのアンケート調査では、人権問題や人権課題への理解が深まり、問題・課題解決に向けた意識改革が進んでいることが把握できる。今後も様々な機会を活用し、継続して取り組む必要がある。 ・幼少期から高校生までは、人権感覚を磨くとともに自己有用感を高めることが重要であるため、各園・校が連携して研究活動や情報交換を行い、継続した取り組みを進めている。										

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
同和問題をはじめ、女性、子ども、障がい者、外国人などの問題のほか、近年はインターネット等を悪用した人権侵害や、子供・高齢者に対する虐待など新たな人権侵害問題が顕在化してきている。また、新たに新型コロナウイルス関連の偏見や差別も生まれている。真に人権が尊重される地域づくりを目指して人権感覚を磨き、人権問題を自身の問題と受け止め自らの行動に結びつけていく学習活動を継続していく必要がある。
<b>改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
学校人権教育研究委員会については、各校での年間通した実践を基盤とし、市内の小中学校以外に、高校、保育園、幼稚園からも参加協力が得られている。未就学児童から高校生までの人権教育について研究の機会、情報交換、連携ができています。公開授業については、学校教育への理解を含め、一般参加者をさらに募っていく。様々な機会を使い啓発事業を推進しているが、意識の改革と実践を目的としているので、継続した取り組みが必要である。併せて、企業における職場内研修にも期待したい。

## 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	生涯学習・青少年 係	事務事業No.	110421	
事務事業名	補導・環境浄化活動事業					
会計	一般会計	款	10	項	4	
				目	1	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画掲載頁	38
	施策目標	心豊かにたくましく生きる子どもの育成				
	施策項目	地域で育む教育の推進				
個別計画	第7期社会教育計画				15	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どのような状態にしたいのか）		
	青少年センターの補導委員と共に補導活動をおとした青少年の健全育成を図る。			補導活動をおし「青少年は地域社会から育む」という観点にたち、地域全体で青少年を育む機運の醸成を図る。		
主な業務内容	青少年センターが委嘱した補導委員と共に、青少年が非行化することのないように街頭活動や、青少年を取り巻く有害環境の浄化活動を行うとともに啓発活動を実施。					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		2,843,656 円		2,831,465 円		2,765,539 円		
	財源内訳	特定財源	円		円		円		
		一般財源	2,843,656 円		2,831,465 円		2,765,539 円		
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	街頭補導活動	回	56	56	56	56	100.0%	56
	②								
	③								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①								
	②								
	③								
	2. 数値で表せない効果								
(指標①)		補導委員の該当補導活動により、青少年への有害な環境の改善、非行防止に効果が出ている。							

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
	点数	3	3	3	3	2	3		18	
評価理由		青少年の健全育成を図るためにも、非行化の防止や青少年に対する有害となる環境の浄化活動のほか、街頭補導等により地域全体で見守っている気運の醸成が図られている。								

### 【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
高齢化や自治会人口減少により補導委員の選出が困難な地域が出ている。また、選出されても1年で交代になることが多く、補導活動が定着しがたい。補導委員・教職員・PTAによる合同補導においても意思統一が難しい状況である。地域が一体となり子ども達を取り巻く諸問題に対して、いかにサポートしていき意識向上させ体制を作り上げていくことが課題。
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
選出方法や活動内容等の見直しについて検討する必要があるが、将来を担う青少年を地域で見守ることの大切さを理解していただくとともに、地域全体で青少年の健全育成に取り組む啓発活動、体制づくりを粘り強く続けていく。



## 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	生涯学習・青少年 係	事務事業No.	110422		
事務事業名	青少年育成事業						
会計	一般会計	款	10	項	4		
				目	1		
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画掲載頁	41	頁
	施策目標	心豊かにたくましく生きる子どもの育成					
	施策項目	地域で育む教育の推進					
個別計画	第7期社会教育計画					14	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）			
	地域全体による青少年の健全育成			市民運動として、地域全体で青少年の健全育成に取り組むまちづくり			
主な業務内容	<p>市民運動として地域全体で子どもを育む機運の醸成を図るため、大田市青少年育成市民会議の事務局として各種事業を推進。春・秋の「あいさつ運動」、毎年8月に開催する「青少年育成市民大会」、地域子育てセミナー、家庭教育懇談会の開催など。</p> <p>また、子ども会や育成会の活動支援として、低廉な利用料でバスを使用できる「子ども体験学習号」の運行を実施。</p>						

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	総事業費（決算額）		2,617,828	円	2,772,473	円	2,745,005	円
財源内訳	特定財源		24,800	円	45,200	円	43,400	円
	一般財源		2,593,028	円	2,727,273	円	2,701,605	円

  

活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
①	青少年育成市民大会	回	1	1	1	1	100.0%	1
②								
③								

  

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
①	子ども体験学習号利用数	件	12	11	13	11	118.2%	12
②								
③								

2. 数値で表せない効果

（指標①）青少年育成市民大会において地域全体で子どもを見守る連帯感の醸成が図られ、現在の子どもたちが抱える問題や課題を分科会において共有することができた。

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
点数	3	3	3	3	2	3	18			

評価理由

少子高齢化や核家族化など急激な社会変化の中、地域全体で青少年育成を支える重要性・必要性が高まっている。

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
少子化により各地区の子ども会等の活動が低調になりつつある。そこをいかにサポートし、地域で子ども達を支える意識や体制を作り上げることが課題。
<b>改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
地域全体で子ども達を見守る連帯感の醸成を図るため、青少年市民大会において再確認するとともに、現在の子どもたちが抱える問題や課題を分科会において学び、意見交換し問題を共有する中で、子どもたちの健やかな成長を願う意識を地域全体で持ち続けるため、粘り強く啓発活動を継続していく。

# 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	大町公民館 係	事務事業No.	110433		
事務事業名	大町公民館活動費						
計	一般会計	款	10	項	4		
				目	3		
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画登載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供					
	施策項目	社会教育の充実と活性化					
個別計画	第7期社会教育計画					10	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館事業の充実を図り、地域づくりの拠点としての機能を発揮する。また、住民の地域における課題や思いや住民が主体的に行動する力（自治と活力）を育むことを目的とする。</li> <li>幼児から高齢者までの幅広い年齢層を対象とする。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>事業を通じて暮らしの質を高め住みよい地域をつくること。</li> </ul>			
主な業務内容	公民館分館事業助成、分館講座の開設支援、文化祭の開催、囲碁将棋の普及、講座の開設						

## 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		2,657,441 円		2,307,441 円		2,301,066 円		
	財源内訳	特定財源	円		円		円		
		一般財源	2,657,441 円		2,307,441 円		2,301,066 円		
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	公民館講座	回	73	87	76	80	95.0%	80
	②	体育事業	回	3	3	3	3	100.0%	3
③	文化事業	回	4	3	3	3	100.0%	3	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	公民館講座開設	人	1,451	2,260	1,574	1,800	87.4%	1,500
	②	体育事業	人	777	708	418	800	52.3%	500
	③	文化事業	人	12,175	12,271	11,062	12,000	92.2%	12,000
	2. 数値で表せない効果		（指標①）前年に引き続き「歴史・哲学講座」「陶芸講座」を開設。「歴史・哲学講座」は全6回で200名弱の参加があり、市民の学習欲求を満たすことができました。						

## 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計	
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続
	評価	高い	高い	普通	重複なし	普通	適正である				
点数	3	3	2	3	2	3					
評価理由	住民は自己実現に向けての学習要求を持っています。公民館での取り組みはさまざまな要求課題を解決するものであるため地域住民の地域・住民の課題を的確にとらえ事業に反映することが大切であります。市民ニーズを把握し事業を継続したい。										

## 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
大町地区市民運動会への参加分館が年々減少しているため、分館に所属していなくても参加できる「オープン参加」を設けた。「オープン参加」には50名ほどの参加があったため一定の効果はあったものとする。但し、全体的な参加者数は少ないため、今後も多くの分館・住民に参加してもらえるような内容の検討が必要。
<b>改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
令和2年度大町地区市民運動会より、今までの分館対抗を原則廃止し誰でも参加できるよう大町地区を大きく二分した「東西対抗」とした。新型コロナウイルス感染症の影響から運動会は中止となったが、次年度も「東西対抗」により実施予定。

## 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	平公民館 係	事務事業No.	110435		
事務事業名	平公民館活動費						
計	一般会計	款	10	項	4		
				目	3		
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画掲載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供					
	施策項目	多様な分野の学習活動の充実と促進					
個別計画	大町市第7期社会教育計画					41	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民、自治会等</li> <li>・住民へ生涯学習の機会の提供、地域づくりの支援</li> </ul>			公民館事業の充実を図り、地域づくりの拠点施設を目指す			
主な業務内容	地域住民参加による運動会・市民スポーツ祭等の体育事業を実施。住民の関心・要望や地域課題に取り組む講座を開設。住民の自主的学習活動を支援するためにサークル体験を実施。自治会・育成会・社会福祉等の地域活動の支援およびこれらとの共催により事業を実施。						

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		1,083,605 円		1,078,991 円		1,157,535 円		
	財源内訳	特定財源	円		円		円		
一般財源		1,083,605 円		1,078,991 円		1,157,535 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	公民館体育事業	回	6	6	5	6	83.3%	6
	②	公民館講座	コース	8	9	10	9	111.1%	10
③	自主学習活動支援	件	3	5	3	5	60.0%	5	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	体育事業参加者	人	834	1,086	821	1,100	74.6%	900
	②	公民館講座受講者	人	230	300	340	300	113.3%	350
	③	自主学習活動支援サークル	団体	79	81	84	80	105.0%	80
	2. 数値で表せない効果		(指標①)						

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		高い	高い	普通	一部重複	高い	適正である			
	点数	3	3	2	2	3	3	継続	16	
										18
評価理由	地域住民の活動拠点として必要性は高い。 公民館事業は毎年行われている事業が多く、地域づくりを担っている。 また、住民の意見や要望を取り入れながら行っているので効率良く、適正に行われている。									

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館事業では、地元自治会の協力が必要不可欠であるが、高齢化や自治会離れがあり、分館ごとの事業が難しくなっている。</li> <li>・公民館講座の参加について、若い世代の参加をさらに増やすために検討が必要。</li> </ul>
<b>改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館事業については、分館への補助金を利用し、合同事業等を実施するよう勧める。</li> <li>・公民館講座については、若い世代が参加できるような内容・時間帯・曜日（例 土曜日、日曜日）で計画を検討する。</li> </ul>

## 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	常盤公民館 係	事務事業No.	110437	
事務事業名	常盤公民館活動費					
会計	一般会計	款	10	項	4	
				目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画登載頁	41
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供				
	施策項目	社会教育の充実と活性化				
個別計画	大田市社会教育計画（第7期）、第4次大田市生涯学習推進プラン					
事務事業の目的	対象（誰を・何を）		意図（どういう状態にしたいのか）			
	地域住民が自主的にやりたい、やってみたいと思える事業を行う。利用者が利用しやすく活動しやすい生涯学習の場の提供をする。地域住民の交流の場として、事業を継続して行う。		地域住民にとって最も身近な学習拠点であり、交流の場である公民館の役割を果たすため、ニーズに応じた各種講座を開催するとともに、体育事業及び文化事業を通じて地域のコミュニティ力の醸成を図る。			
主な業務内容	①講座（親子教室「ともだち広場」、鍬の峰登山、わら細工講座ほか）、②体育事業（常盤地区球技大会、常盤地区運動会、卓球・ソフトバレー大会）、③文化事業（常盤囲碁・将棋・マージャン大会、サークル活動発表展示会）、④補助事業（分館事業補助金）					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	総事業費（決算額）		922,658	円	948,995	円	865,358	円
財源内訳	特定財源			円		円		円
	一般財源		922,658	円	948,995	円	865,358	円

  

活動指標	指標名	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
			実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
①	体育事業	回	3	3	2	3	66.7%	3
②	文化事業	回	2	2	2	2	100.0%	2
③	講座事業	回	39	44	30	45	66.7%	30

  

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
①	体育事業参加者	人	1,043	1,056	969	1,000	96.9%	1,000
	文化事業参加者	人	357	388	343	380	90.3%	350
	講座事業参加者	人	782	560	645	800	80.6%	700
	2. 数値で表せない効果 （指標①）							

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	普通	普通	重複なし	普通			
点数	3	2	2	3	2	3	18			
評価理由	<p>例年行っている定例講座以外にも、地域住民からの希望等により公民館講座を開講しているが、ほぼ定員以上の参加希望者がある。体育事業については、人口減少により運動会等の参加者選考が難しくなるなかで、縮小や別の行事に変えたほうが良いとの声もあるが、全地域参加行事として役員が協力して開催している。文化行事は公民館利用サークルが制作した作品をサークル展で展示している。また麻雀大会については例年参加者が定員まであつまり地域事業として定着している。本年度新型コロナウイルス感染対策により2月後半からの行事と定期的講座が開催できなかった。</p>									

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
<p>麻雀囲碁将棋大会について囲碁の参加者がいない状況だった。少子化、余暇の過ごし方や趣味の多様化等により囲碁将棋を指す人が減っている。サークルが減少してきているので、新しい講座を実施したが定期的サークル活動につながっていない。親子教室は年々少子化により参加者が減っている。運動会には小学生から高校生までが参加する種目があるが、少子化が進んでいるとともに、最近の小中高生は習い事や部活動等で忙しいため、各分館における参加者集めが難しくなっている。また地域によっては選手選考が大変なので、やめたいという声もある。</p>
<b>改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
<p>麻雀囲碁将棋大会については保育園、小学校と連携し、クラブ活動や行事の際に大会参加へのPRを行う。公民館利用推進のためにも活動サークルを増やす必要があることから、サークル活動に繋がる講座を継続して行う。運動会は地区で全員参加することができる行事であり、地域住民の交流の場として重要であることから、競技性や競争よりも親睦を深めることを目的とした参加しやすい競技へと徐々に変更していく。</p>



# 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	社公民館 係	事務事業No.	110439	
事務事業名	社公民館活動費					
計	一般会計	款	10	項	4	
				目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画掲載頁	10
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供				
	施策項目	生涯各期における学習活動の充実				
個別計画	大田市社会教育計画（第7期）					
事務事業の目的	対象（誰を・何を）		意図（どういう状態にしたいのか）			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民、自治会等</li> <li>・住民へ生涯学習の機会の提供、地域づくりの支援</li> </ul>		公民館事業の充実を図り、地域づくりの拠点施設を目指す			
主な業務内容	①講座（親子教室「なかよし広場」、花咲く書道講座ほか） ②体育事業（社地区球技大会、社地区子ども球技大会、社地区運動会、元旦マラソン） ③文化事業（社地区文化祭） ④補助事業（分館事業補助金）					

## 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		787,283 円		799,325 円		731,432 円		
	財源内訳	特定財源	円		円		円		
一般財源		787,283 円		799,325 円		731,432 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	体育事業	回	4	4	4	4	100.0%	4
	②	文化事業	回	1	1	1	1	100.0%	1
③	講座事業	回	38	37	31	34	91.2%	35	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	体育事業参加者	人	606	630	672	622	108.0%	636
	②	文化事業参加者	人	241	333	205	282	72.7%	260
	③	講座事業参加者	延べ人数	833	513	349	658	53.0%	565
	2. 数値で表せない効果（指標①）								

## 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	17
	評価	高い	高い	普通	重複なし	高い	適正である					18
点数	3	3	2	3	3	3		18				
評価理由	地域住民の活動拠点として、公民館は学びの場だけでなく、親睦や交流の場でもあることから必要性も高く、地域づくりには欠かせない。また、公民館運営審議会など、住民の意見や要望を取り入れながら事業を進めているので効率良く、適正に行われている。											

## 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
①講座等の学習的な取り組みとしては、社会環境の変化に合わせた関心を持って頂けるような活動内容に加え、現在の情報化社会に合わせた活動内容への取組みと改善が必要と考える。受講後に受講者のサークル活動に繋がっていない講座が多かった。 ②体育事業の球技大会や子ども球技大会は、少子高齢化に伴う人口減少、ライフスタイルの多様化により参加者は減少傾向にあるが、分館対抗の枠組みを無くしている社地区運動会や元旦マラソンは参加者数が増加傾向にある。
<b>改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
①公民館の利用促進を図る為、サークル活動化を推進する。受講者のニーズを的確にとらえるための情報収集を心掛ける。 ②球技大会は、単独では参加出来ない分館同士で合同チームとして参加を要請している。運動会や元旦マラソンなどの体育事業は、地域の枠を超えての参加者が定着してきており、毎年参加を楽しみにしている方々も増えている。更なる発展に向けて、イベント周知の広報活動を充実させていきたい。

## 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	八坂公民館 係	事務事業No.	1104311		
事務事業名	八坂公民館活動費						
計	一般会計	款	10	項	4		
				目	3		
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画掲載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供					
	施策項目	社会教育の充実と活性化					
個別計画						頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民</li> <li>住民へ生涯学習の機会の提供、地域づくりの支援</li> </ul>			地域社会のニーズに対応した質の高い公民館事業を推進し、地域コミュニティの活性化を図るとともに、自主グループ等の育成と支援を行う。			
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育事業（地域、小学校、保育園合同運動会、体操教室等）</li> <li>○文化事業（文化祭、かるた・もちつき大会等）</li> <li>○学級講座（子育て学級、高齢者学級、八坂塾等）</li> <li>○その他（子ども会育成会等の団体事業支援、八坂図書館図書貸出し、サークル活動団体支援や分館活動事業への支援や補助金交付）</li> </ul>						

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		1,212,786 円		1,053,343 円		970,020 円		
	財源内訳	特定財源	円		円		円		
		一般財源	1,212,786 円		1,053,343 円		970,020 円		
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	体育事業	回	5	5	11	5	220.0%	8
	②	文化事業	回	4	4	4	4	100.0%	3
③	学級講座	回	27	30	27	30	90.0%	18	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	体育事業参加者	人	840	590	700	800	87.5%	600
	②	文化事業参加者	人	345	396	487	370	131.6%	450
	③	学級講座参加者	人	858	751	680	850	80.0%	420
	2. 数値で表せない効果		（指標）公民館事業の実施により、地域住民の交流する機会が創出され、自治活動の向上や地域の活性化に寄与している。新型コロナウイルスの影響により、3月に予定していた事業を中止した。						

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	16
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	改善の余地あり					
点数	3	3	3	3	2	2						
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館事業は毎年行われている事業が多く、地域づくりを担い、地域の活性化につながっている。</li> <li>運動会や文化祭をはじめとした各種事業は、実行委員会等を組織して住民の意見や要望を十分取り入れ住民参加型の運営ができるよう取り組んでいる。</li> </ul>											

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
少子高齢化と人口減少により、分館（自治振興会）を維持していくことが難しくなっている。 また、ライフスタイルやニーズの多様化からサークル活動が重要となっているが、人口減少等から地域内での育成が難しい状況である。
<b>改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>体育事業の分館対抗を見直し、複数分館を同一チームとして実施できるよう検討していく。</li> <li>分館参加型の事業を見直し、個人参加型の事業を増やしていく。</li> <li>子どもから高齢者まで手軽に楽しめ、世代間、地域間交流が図られる内容を検討する。</li> <li>学級講座は、地区内のニーズを把握し新規サークルの設立につながるよう取り組んでいく。</li> </ul>

## 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	美麻公民館 係	事務事業No.	1104313	
事務事業名	美麻公民館活動費					
会計	一般会計	款	10	項	4	
				目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画掲載頁	41
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供				
	施策項目	社会教育の充実と活性化				
個別計画	大町市第7期社会教育計画					頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民、自治会等</li> <li>・住民へ生涯学習の機会の提供、地域づくりの支援</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館事業の充実を図り、地域づくりの拠点施設を目指す</li> </ul>		
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育事業「地区、学校、保育園合同運動会・夏季球技大会・冬季スポーツ大会」</li> <li>・文化事業「元気アップ講座・地区文化祭、親子教室、高齢者・熟年学級、通学合宿・自然体験教室、介護予防教室共催」</li> <li>・分館事業補助</li> </ul>					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		3,362,415 円		2,515,643 円		3,359,368 円		
	財源内訳	特定財源	円		円		円		
一般財源		3,362,415 円		2,515,643 円		3,359,368 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	体育事業	回	3	3	2	3	66.7%	3
	②	文化事業	回	15	13	17	12	141.7%	15
③									
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	体育事業	人	625	570	550	625	88.0%	600
	②	文化事業	人	1,592	1,294	1,116	1,600	69.8%	1,200
	③								
2. 数値で表せない効果（指標①）									

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		高い	高い	普通	重複なし	普通	適正である			
	点数	3	3	2	3	2	3		継続	16 18
評価理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の身近な学習拠点である公民館は学びの場、親睦の場として必要性が高いことから、住民の意見や要望も取り入れ各種講座や体育事業を実施した。特に運動会については検討委員会を立上げ、委員の方から様々な意見をいただき合同で開催し、地域の住民からも好評であった。</li> </ul>								

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育事業は分館ごとの参加者確保が必要になることから、高齢化に伴い、地区役員の負担が懸念される。競技内容、競技方法等について検討が必要と考える。</li> <li>・公民館文化事業への参加者も減少傾向にあるので、活動の内容や地域の方のニーズを把握することが重要。</li> </ul>
<b>改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育事業の夏季球技大会・冬季スポーツ大会は、分館対抗の枠組みを無くしたり、種目を再検討して開催することも必要。</li> <li>・文化事業の講座等については、開催時間・開催日・内容を検討し、休日等の開催も計画する。</li> </ul>

## 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	図書館	係	事務事業No.	110443		
事務事業名	図書資料購入事業							
会計	一般会計	款	10	項	4	目	4	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画掲載頁	41	頁
	施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実						
	施策項目	芸術文化の振興						
個別計画	大田市第7期社会教育計画・第4次大田市生涯学習推進プラン						頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	市民が必要とする資料を選定及び購入することにより、図書館の役割を強化し、利用者の増加や図書館活動の質的向上を図ることを目的とする。			知の拠点として、住民の「知りたい」、「学びたい」に答えられるよう、求める情報をいつでも提供できる環境づくりに努め、住民が自ら調べ、考え、行動できる手助けをする。				
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のニーズに適合した資料の選定及び購入</li> <li>・市民のリクエスト本の購入</li> <li>・図書館ならではの専門的な知識を得るための資料の購入</li> <li>・図書資料の収集、整理</li> <li>・資料の修理</li> </ul>							

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		8,218,617 円		8,307,075 円		8,287,486 円		
	財源内訳	特定財源	円		円		円		
一般財源		8,218,617 円		8,307,075 円		8,287,486 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	図書購入	冊	4,882	4,290	3,889	4,000	97.2%	4,000
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	利用者数	人	35,251	35,631	34,802	38,000	91.6%	38,000
	②	貸出冊数	冊	143,200	144,946	146,474	150,000	97.6%	150,000
	③								
2. 数値で表せない効果（指標①）									

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	15
	評価	高い	高い	普通	一部重複	普通	適正である					18
点数	3	3	2	2	2	3						
評価理由	<p>人口減少の中で、利用者数は微減しているものの、貸出数は増加しており、住民のニーズは高いといえる。</p> <p>住民のニーズを常に把握した上で、住民が、自ら考え、調査し、学習する一助となる各種講座の開催や、施設訪問による読み聞かせ等により、図書館のニーズがより高まっていると考える。</p> <p>限られた予算の中で、より住民が望んでいる図書の選書を心がける。</p>											

### 【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）	
<p>少子化や活字離れに伴い、中学生・高校生の貸し出し冊数が大幅に減少している。若者の言語能力の低下、勉学意欲の減退など、知的水準が落ちていくと危惧されているが、0歳～6歳、13歳～15歳、19歳～22歳、30歳～39歳、50歳、60歳代以外の年代は全て減少傾向にあり、子どもだけでなく大人にも「読書離れ」の傾向が認められる。また、立地の問題もあるが、昨今、図書館は複合施設として多様な役割を求められているが、当館のように単館として機能しているため、大幅な利用者増は望めない状況にある。</p>	
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）	
<p>図書館は社会教育機関の役割と地域の情報拠点の役割との2つの役割がある。その機能を一層充実させるためには、地域との接点を創り出していくこと、そのために、学校を含めた他の公共施設との連携を促進するとともに、資料を計画的かつ系統的に収集し、市民のニーズに応え、より魅力的な蔵書構築を図るため、選書基準に基づき計画的な図書購入に努める。またヤングアダルトと言われる中高生向けの図書を積極的に収集し、その世代の興味、関心を引き出し、知的好奇心を引き出す資料収集に努める。</p>	



## 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	文化会館	係	事務事業No.	110453	
事務事業名	文化会館公演事業						
会計	一般会計	款	10	項	4	目	5
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画掲載頁	45 頁
	施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実					
	施策項目	芸術文化の振興					
個別計画	第7期社会教育計画					35	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）			
	基本、大町市民を対象とするが、同規模の文化ホールが近隣市町村にないことから、広域的な利用についても対象とする。			舞台芸術に触れる機会の少ない市民が、気軽に楽しく芸術文化に触れあうことができるよう文化会館を中心とした継続的な芸術文化活動を促進すると共に優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供する。			
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミュージカル、落語、クラシックコンサート、ポップスコンサート等の公演の開催。</li> <li>・市民文化芸術活動の発表の場の提供</li> </ul>						

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		19,403,887 円		26,499,905 円		12,655,049 円		
	財源内訳	特定財源	5,682,592 円		8,380,356 円		1,483,149 円		
一般財源		13,721,295 円		18,119,549 円		11,171,900 円			
活動指標	指標名		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	単位		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	文化会館自主共催事業	回	12	12	16	10	160.0%	
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名		単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①	文化会館自主共催事業入場者数	人	5,933	8,028	6,868	6,000	114.5%	
	②	文化会館利用回数	回	117	89	83	100	83.0%	
	③	文化会館入場者数	人	28,224	28,687	30,225	30,000	100.8%	
2. 数値で表せない効果（指標①）									

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	高い	普通	重複なし	高い			
	点数	3	3	2	3	3	2		継続	16
										18
評価理由		<p>○市民の文化活動発表の場であるとともに、日頃接することの少ない芸術性の高い舞台芸術や娯楽の場として、必要性は非常に高いと思われる。また、近隣市町村において同規模のホールが存在しないことから、広域にわたっての必要性が考えられる。</p> <p>○今後の運営について、直営で進めるのか指定管理者制度の導入が適当かなどについての検討が必要と思われる。</p>								

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
<p>市民の文化活動の発表の場であるとともに、日頃接することの少ない芸術性の高い舞台芸術や娯楽の場としての位置づけがある。市民の芸術文化活動は、人口減少や高齢化により停滞気味であり芸術文化協会の活動を支援しながら活性化を図ることが必要。優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供する場として、今後も優れた作品を数多く提供するため、比較的安価に提供できるよう方策を講ずる。</p>
<b>改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
<p>優れた舞台芸術の鑑賞機会を増やすために、通常の自主文化事業に加えて公演料を負担せずに実施できる共催事業を多く実施していく。</p> <p>広く芸術文化を担う人材育成のため市芸術文化協会の組織強化を図る。</p>

## 事務事業評価調査

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	文化財 係	事務事業No.	110462	
事務事業名	遺跡発掘調査事業					
会計	一般会計	款	10	項	4	
				目	6	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画掲載頁	46
	施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実				
	施策項目	文化財の保護継承と活用				
個別計画	大田市第7期社会教育計画				36	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	埋蔵文化財の保護と記録保存、出土品や遺跡の活用を図る。			埋蔵文化財の適切な保護と必要に応じた埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録の保存と出土品や埋蔵文化財の有効活用を図る。		
主な業務内容	学術発掘調査、土木工事等に伴う試掘調査、緊急発掘調査・記録保存発掘調査に伴う現地見学会や出土品等の展示会の開催					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		297,027 円		148,354 円		0 円		
	財源内訳	特定財源	0 円		0 円		0 円		
一般財源		297,027 円		148,354 円		0 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	発掘調査件数	件	2	1	0	1	0.0%	1
	②	試掘調査件数	件	6	4	3	4	75.0%	4
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	発掘調査面積	m <sup>2</sup>	183	119	0	50	0.0%	50
	②	埋蔵文化財包蔵地の問い合わせ件数	件	63	82	91	70	130.0%	70
	③	調査遺跡内容							
	2. 数値で表せない効果 （指標③） 遺跡の時代、種類や範囲等に違いがあるため、具体的な遺跡の内容と成果はそれぞれ異なってくる。								

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	普通	普通	普通	重複なし	普通	適正である			
点数	2	2	2	3	2	3		18		
評価理由	文化財保護法に規定する各種発掘事業の対応であるため、文化財包蔵地等における土木工事等の実施にあたっては必須の事務事業であるため、適正な事業主体であり、他事業との重複はない。しかし、土木工事等の実施に付随した事業の実施である、他事項については特徴的なことはない。									

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
発掘調査は、学術調査、土木工事等に伴う緊急発掘調査、その前段となる工事立会いの際の試掘調査に分けられ、年度ごとに各種の土木工事、開発案件のばらつきがあるため、活動指標や成果指標の変動が生じる。 以前は、考古学が専門の学芸員、指導員が配置されていたため、大規模なものを除き、直営での発掘調査が可能であったが、現在は配置されていないため、試掘調査による発掘調査の必要性の判断ができず、直営での発掘調査も実施することができない。更に、従前の発掘調査による出土品等の整理・整頓等についても対応ができない状況にある。
<b>改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
発掘調査関連の事務事業の適切な執行を進めるとともに、従前の出土品等も併せた整理・整頓と管理・活用を進める必要があるため、専門職員の配置が必要である。

## 事務事業評価調書

担当課	教育委員会 部	生涯学習 課	文化財 係	事務事業No.	110465	
事務事業名	中村家住宅管理事業					
会計	一般会計	款	10	項	4	
				目	6	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画掲載頁	46
	施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実				
	施策項目	文化財の保護継承と活用				
個別計画	大田市第7期社会教育計画				36	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	国重要文化財建造物の保存（維持管理）と活用（公開）を進める。公開対象は、市民や観光客である。			国重要文化財建造物の適切な維持管理を図るとともに、地域の貴重な文化財として一般に公開し、地域の歴史や民俗文化を学び、体験する場とする。		
主な業務内容	毎年4月から11月までの8か月間、一般に公開するとともに、必要な維持管理を行っている。					

### 【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）			2,127,141	円	2,482,786	円	1,992,193	円
財源内訳	特定財源		220,150	円	217,250	円	226,550	円	
	一般財源		1,906,991	円	2,265,536	円	1,765,643	円	
活動指標	指標名		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	単位		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	公開日数	日	180	180	177	180	98.3%	150
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	入館者数	人	804	809	747	800	93.4%	600
	②								
2. 数値で表せない効果（指標①）									

### 【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	普通	普通	普通	重複なし	普通			
点数	2	2	2	3	2	3		18		
評価理由	他の文化財建造物のような特段の話題性を持つものではないが、国重要文化財建造物であり、地域の貴重な文化財として、市による適切な管理が必要である。									

### 【具体的な課題と改善】

<b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b>
地域の重要文化財建造物の公開を通して、地域の文化と民俗にふれる場を確保するとともに、観光資源として地域振興の一助とするため、平成18年度の市村合併以来重要文化財の公開事業を受け継いでいる。入館者数は年700～800名で推移しているが、市街地から離れた、江戸時代の山村の民家であり、他の文化財建築物と違って特段の話題性を持つものではないため、入館者の増加はなかなか見込めない。
<b>改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b>
学校教育の体験交流の校外授業や地区の分館活動での利用がなされている。地域の貴重な文化財として適切に管理するとともに、公開だけでなく、地域の学習活動の場としての有効活用を引き続き検討したい。また、展示物、展示手法や情報発信方法を見直し、現状より集客力のある施設となるよう検討を進める。